



© UNICEF/NYHQ2008-0465/Holtz

ユニセフ： 子どもたちの命を救うには戦略が必要

—スcoop（ニュージーランド）、2008年1月25日

ユニセフの仲間たち

ユニセフ国内委員会、著名人・企業パートナーは、開発途上国の子どもたちの状況を広く知らしめるために、継続的に重要な仕事をしている。これは物価高騰と経済停滞の中では特に重要となっている。

子どもに焦点を合わせる

ユニセフ国内委員会——独立した民間組織——はユニセフのために募金を集め、その活動を世界中に知らしめるための活動を展開している。各国内委員会は、独自の理事会を持ち、外部のオーディター（監査人）を擁しており、集まった募金とその使途について、年に一度、報告書を作成している。ユニセフは、年間の収入の約3分の1を、世界の36の国内委員会からの拠出に依存している。

フランス国内委員会は、10月に起きたパキスタンの南西部バロキスタン州の大地震後に、困難な状況にある子どもたちとその家族の保護のために、100万米ドルを拠出した。この緊急事態の発生後に拠出された分を合わせると、その合計は600万米ドル近くにも達した。

日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）は、スポーツ用品の多国籍企業・株式会社アシックスの創業者である故鬼塚喜八郎氏から募金として100万米ドルを受け取った。鬼塚氏による募金は、オリンピックのマラソンで2度優勝したことがあるエチオピアの故アベベ・ビキラ選手の栄誉を称え、エチオピアのティグレ州と、南部諸民族州でのコミュニティを基盤とする栄養プログラムに拠出された。

ユニセフの予防接種キャンペーンを支援するために、ギリシャ国内委員会は、ギリシャのラジオ局と共にラジオ募金マラソンを主催した。リスナーからの募金15万ユーロと合わせ、ギリシャ議会、ギリシャ都市コミュニティ連合、アテネ市が合わせて6万ユーロを拠出した。

2008年、アメリカ国内委員会は、「世界水の日」に合わせて第2回Tap Project（タップ・プロジェクト）を実施。これは、レストランを利用する人たちに、出されたコップ1杯の水ごとに1米ドルの寄付をお願いするもの。2007年の開始以来、参加レストランはニューヨーク市の300軒から、全米で2,300軒以上にまで広がった。全体でTap Projectは100万米ドル近い募金を集め、ベリーズ、コートジボワール、グアテマラ、イラク、ラオス、ニカラグアで安全な水を確保するためのプログラムに使われる予定である。

オランダ国内委員会の働きかけで、ユニセフはINGアムステルダム・マラソンで脚光を浴びることになった。10月開催の同マラソンの名前とロゴが変えられ、「ING Amsterdam Marathon for UNICEF」（ユニセフのためのINGアムステルダム・マラソン）となったのである。参加者は、学校に行けない世界の何百万人もの子どもたちへの支援を表すため、ユニセフ・ブルーの特別な靴ヒモの着用を要請された。このイベントでは、エチオピアの遠隔地の村での教育プロジェクトのために9万ユーロの募金が集まった。

格好良さと寛大さと

1954年、ダニー・ケイが著名人として子どもたちのための最初の特使に任命されて以来、ユニセフ親善大使はユニセフになくてはならない存在となった。多くの人々の注目を集めることができる親善大使は、レーザー光線のようにピンポイントで、子どもたちのニーズに焦点を合わせることができるのである。

2008年4月、世界的に有名な指揮者であり、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団音楽監督でもあるチョン・ミョンフンが、最新のユニセフ親善大使としてユニセフ・ファミリーの一員に加わった。長年にわたって若い人たちを支援してきたチョン・ミョンフンは、その音楽と名声を通して子どもの権利を推進していく。

8月には、親善大使であるラン・ランとジャッキー・チェンが、北京でユニセフの「チャンピオンズ・フォー・チルドレン」（子どもたちの擁護者）のレセプションに参加した。2008年の北京オリンピックに合わせて開催されたこのイベントでは、中国四川省大地震の被災者とHIV/エイズの影響を受けている子どもたちのための募金が集められた。ラン・ランはまた、子どもたちの音楽への愛情を育むための国際的な基金を創設したが、この基金を通じて6～12歳の若者が優秀な音楽学院に通うための奨学金を得ることができるようになる。

ミア・ファローは、ユニセフの活動のためにたゆみなく寄与

し、2008年は、中央アフリカ共和国からコンゴ民主共和国、そしてハイチを訪れた。彼女は、これらの国々の緊急事態に呼应し、その国際的な名声をもって、保健ケア、教育、平和を支援するよう呼びかけた。

アンジェリーク・キジョーは、昨年につき、女子教育の最前線に立ち、9月の新学期を迎えたばかりのシエラレオネを訪問し、ユニセフが支援する教育プロジェクトとマザーズ・クラブを視察した。音楽界の世界的な逸材は、貧困、児童婚、虐待、搾取が原因で学校を途中退学した女の子のためのプログラムである「Girls Tell Us Forum」のメンバーと話をし、彼女たちに対して、学校にとどまり「アフリカの顔を変えていこう」と励ました。

デビッド・ベッカムも2008年にシエラレオネを訪問し、子どもの生存に人々の注意を集めた。彼は診療所を訪問し、子どもたちがポリオのワクチン投与を受けている様子を視察した。その後、小さな村を訪問して殺虫剤処理を施した蚊帳を配っている様子を見学したり、栄養補給センターを訪ねて、栄養強化ミルクと高たんぱくビスケットが子どもたちに配られる様子を視察した。ベッカム大使はまた、有名なサッカー選手に会えるというだけで興奮している数多くの子どもたちに、サイン入りのサッカーボールを手渡した。

ユニセフは親善大使に加え、ほかにも特別代表を任命している。元子どもの兵士で、自らの体験を著書にし、ユニセフの「紛争の被害にあった子どもたちのための代弁者」となっているイシュマエル・ベアは、ジャマイカを訪れ、若者たちに暴力に背を向けるよう呼びかけた。11月には、ほかの元子どもの兵士や活動家5人と共に、Network for Young People Affected by War（紛争の影響を受けた若者たちのネットワーク）を形成。武力紛争によって人生を狂わされた無数の子どもたちが声を上げるための手段を提供している。

ユニセフ子どものための大使であるヨルダンのラニア王妃は、若者の権利の熱心な擁護者である。2008年、王妃は、教育とジェンダーの平等の面で世界的なリーダーシップを発揮し、11月の世界子どもの虐待防止の日には、あらゆる形態の子どもへの搾取について反対する声明を読み上げた。

社会的責任

ユニセフは、民間企業との協働の歴史が長い。数多くの企業が、この経済不況の中でも、子どもたちに対する責任を真摯に受け止めてくれた。2008年、時間、製品、知識、専門技術、戦略的ネットワーク、資金をユニセフのために提供することによってコミットメントを表明した企業・基金は600以上に上った。

企業パートナーには、Barclays、BD（Becton, Dickinson）、BT（旧British Telecom）、FCバルセロナ、Gucci、H&M、ING、Montblanc、Proctor & Gamble、Starwood Hotels &

Resorts、Volvicなどがある。

IKEAは、ユニセフにとって最大の企業パートナーとなり、2001年以降の拠出額総計は7,500万米ドル、2008年だけでも3,800万米ドルに上っている。2005年に組織されたIKEA Social Initiativeは、ユニセフと協働で、アフリカ、アジア、中央・東部ヨーロッパ、CIS（独立国家共同体）に住む何百万人もの子どもたちと女性たちに目に見える恩恵をもたらし、持続的な変化をもたらした。

Amway Europeの‘One by One Campaign for Children’（子どものためのワン・バイ・ワン＜個別＞キャンペーン）は、2008年、ユニセフの12のプロジェクトに対して120万ユーロを拠出した。こうした取り組みは、小さな子どもの生存と発達、基礎教育、ジェンダーの平等を支援するものである。2001年以来、Amway Europeとその独立事業主とのネットワークは、販売促進活動、カスタマイズしたグリーティング・カードの売

り上げ、小売事業、従業員による寄付イニシアティブを通して、500万ユーロに近い額を拠出している。

Change for Good® は、1987年に創設されたユニセフと国際航空業界との革新的なパートナーシップであるが、8,800万米ドル近くをユニセフのプログラムに拠出している。このプログラムは、航空会社の従業員が余った外国コインや紙幣を乗客から集め、世界の貧しい子どもたちの命を救う資材やサービスのために拠出するというもの。2008 年単独で、この提携を通じて2008年だけで800万米ドル近くが集められた。中でもBritish Airwaysは、2,500万ポンドという金字塔を打ち立てた。

ユニセフの主要な企業パートナーは、経済不況にも関わらず、2008年、次なる世代のために健全で長期的な投資を行ったのである。企業の力強い支援により、ユニセフは、保健ケア、栄養、社会的保護、安全な水、教育といった支援を世界の子どもたちに提供することができたのである。

ユニセフ国内委員会

アンドラ国内委員会
オーストラリア国内委員会
オーストリア国内委員会
ベルギー国内委員会
カナダ国内委員会
チェコ国内委員会
デンマーク国内委員会
エストニア国内委員会
フィンランド国内委員会
フランス国内委員会
ドイツ国内委員会
ギリシャ国内委員会
香港国内委員会
ハンガリー国内委員会
アイスランド国内委員会
アイルランド国内委員会
イスラエル国内委員会
イタリア国内委員会
ユニセフ日本委員会（財団法人 日本ユニセフ協会）
韓国国内委員会
リトアニア国内委員会
ルクセンブルク国内委員会
オランダ国内委員会
ニュージーランド国内委員会
ノルウェー国内委員会
ポーランド国内委員会
ポルトガル国内委員会
サンマリノ国内委員会
スロバキア国内委員会
スロベニア国内委員会
スペイン国内委員会
スウェーデン国内委員会
スイス国内委員会
トルコ国内委員会
英国国内委員会
米国国内委員会

ユニセフ親善大使（2008年現在）

ロード・リチャード・アッテンボロー（英国）
アミターブ・バッチャン（インド）
デヴィッド・ベッカム（英国）
ハリー・ベラフォンテ（米国）
ベルリン・フィルハーモニー（ドイツ）
ジャッキー・チェン（中国特别行政区香港）
ジュディ・コリンズ（米国）
チョン・ミョンフン（韓国）
ミア・ファロー（米国）
ロジャー・フェデラー（スイス）
ダニー・グローバー（米国）
ウービー・ゴールドバーグ（米国）
アンジェリーク・キジョー（ベナン）
ヨハン・オラフ・コス（ノルウェー）
黒柳徹子（日本）
フェミ・クティ（ナイジェリア）
レオン・ライ（中国特别行政区香港）
ラン・ラン（中国）
ジェシカ・ラング（米国）
リッキー・マーティン（プエルトリコ、米国）
シャキーラ・メバラク（コロンビア）
サー・ロジャー・ムーア（英国）
ナナ・ムスクーリ（ギリシャ）
ユッサー・ンドゥール（セネガル）
バネッサ・レッドグレイブ（英国）
セバスチャン・サルガド（ブラジル）
スーザン・サランドン（米国）
ベンデラ・トメセン（ノルウェー）
マキシム・ヴェンゲーロフ（ロシア連邦）